



佐賀県立唐津東高等学校・佐賀県立唐津東中学校 学校通信〔総務部発行〕

◎中学・高校合同入学式 ～ようこそ、鶴城の学び舎へ～

4月10日（水）に高校体育館にて、中高合同入学式が行われ、中学生120名、高校生231名が新たに鶴城生の仲間入りをしました。渡辺校長の式辞や大河内振興会会長の祝辞に続き行われた中高の新入生代表による宣誓では、その力強い宣誓の言葉にこれからの学校生活への期待や意気込みが感じられ、とても印象深いものとなりました。先輩方の姿を見ながら、鶴城生として日々の学業や部活動に励んでいってほしいと思います。



《入場する新入生たち》

◎中高対面式

入学式翌日の4月11日（木）には、新入生と在校生の初対面となる中高合同対面式が行われました。渡辺校長や高校生徒会長（才田健吾さん）、中学生生徒会長（岡本陽さん）からの温かい歓迎の言葉のあと、高校の野球部・剣道部の先輩から力強いエール、校歌「天日かがやき」の紹介と続きました。中高合わせて総勢351名の新たな仲間が加わり、これからお互いに力を合わせて、唐津東・高の新たな歴史を共に築いていってほしいと思います。



《先輩方に挨拶をする
中学校新入生代表の中島滉太さんと
高校新入生代表の小川颯大さん》



《先輩方からの新入生へのエール》

◎インドネシアの中学生との交流会

4月25日（木）に、インドネシアLABスクールの中学生33名が来校され、今年で5回目となる本校中学生との交流会が本校武道場にて行われました。交流会には中学校生徒会と剣道部の生徒が参加し、インドネシアの生徒達は竹刀を借りて剣道を体験しました。その後、教室では中学3年生が班に分かれて英語で折り紙やけん玉といった日本文化を紹介し、はじめはお互いに緊張しながらも、少しずつ打ち解けることができました。最後に、インドネシアの生徒達は書道部のパフォーマンスを見学後、中学2年生とともに書道室にて書道を体験しました。これまでの交流よりも日本文化を体験する機会が増えて、インドネシアの中学生もとても楽しんでいました。また、短時間の中でも体験を共有することで、心の距離をより縮めることができたようでした。



《日本文化・折り紙で交流》



《書道を体験する生徒》



《竹刀を持って剣道を体験》

◎開校記念鏡山登山

4月26日（金）に、本校の開校記念式典、開校記念登山が行われました。記念式典では、本校が今年度で開校120周年を迎えることにも触れられ、改めて本校の歴史と伝統を確認することができました。また、去年は悪天候のため中止となった登山も無事に実施され、全校生徒で鏡山に登りました。少し肌寒い中での登山となりましたが、山中では生徒達は汗ばみながら山頂を目指していました。山頂ではゆっくりと昼食を食べ、友人たちとの仲を深めることができたようです。昼食後、全校生徒で清掃ボランティアを行いました。



《山頂で清掃活動を行う生徒》

◎～さがを誇りに思う講演会～「A-noker であり続けるために」

5月9日（木）に本校高校体育館にて、「さがを誇りに思う教育推進事業」の一環として、A-noker株式会社より安東浩太郎さんを招き、講演会が行われました。安東さんは、奥様の実家である佐賀県太良町の自然と食に魅了され、会社を退職後、一から佐賀でアスパラ農家を始めたという異色の経歴があり、現在に至るまでの道のりや、これからの農業の姿などについて話していただきました。安東さんのフランクな語り口と、若者の農業に対するネガティブなイメージを少しでも変えていきたいという情熱に生徒達も惹きつけられ、終始熱心に安東さんの話に耳を傾けていました。生徒達は、豊かな自然と農産物に溢れたふるさと佐賀の魅力に改めて気付かされただけでなく、農業に対するイメージにも変化があったのではないかと思います。



《講演される安東さん》